

運動を楽しみ、健康に気をつけて生活する国見っ子の育成

大分県国東市立国見小学校

全校児童数	95名		
全クラス数	8	教職員数	24名
体育専科教員訪問学校数			1校
訪問校	姫島村立姫島小学校		
体育専科教員名			荒木 茂

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力・運動能力調査結果に次の弱点領域がある

- ・反復横跳び
- ・50m走
- ・シャトルラン

◆運動への愛好度の肯定的回答は高いものの「好き」の割合が県平均より18ポイント低い

- ・ゲーム要素を取り入れる

2 取組の計画

- ①体育科授業の充実
- ②1校1実践の取組の改善と充実
- ③体力向上プランの作成・実践・検証
- ④体力向上に向けてPTAと連携した取組
- ⑤市内小学校への訪問指導における指導助言

Do：実践内容

1 体育授業の充実

(1) 授業のスケジュール化

- ①サーキット運動をスタートとして、準備運動・主運動につながる運動・主運動・振り返りまでを提示してわかりやすさが運動量や助け合い活動の向上へつながるように取り組み始めた。
- ②単元の初めには、単元の流れを示しめあてを持って授業に取り組みやすいようにした。

(2) 解決意欲を促す課題設定

- ①子どもが真剣に取り組めそうな単元や教材の選定を心掛けた。また、子どもの実態に応じた適切な課題を設定した。

2 1校1実践の取組の改善と充実の見直し

- ①子どもたちが自ら進んで取り組めるように、学期毎に内容の見直しを行った。
 - ・1学期 8秒間走、反復横跳び、ケンパー
 - ・2学期 持久走、体操
 - ・3学期 おにごっこ、8秒間走

3 市内小学校への訪問における指導助言

- ① 授業での写真や動画を示しながら、適切な言葉かけが子どもの動きにどのような効果をもたらしたかなどを評価した。
- ② 体育授業でのICT機器導入の道筋や機器の取り扱いについて。
- ③ 運動場の効果的なレイアウトとトラック用ロープの敷設方法。

●工夫したこと

- ① 単元や授業に入る前に打ち合わせを行い、準備や役割分担について確認した。支援を要する子どもについての場面や方法について確認した。
- ② 体育専科教員が動きのコツをアドバイスするなど出番を決めてポイントを絞った指導に努めた。
- ③ 子どもの活動時間（運動・助け合い）を確保するための授業の流れを決めた。また、教材教具等の授業の場づくりのための準備や片付けの省力化のために学習時期を近づけた。
- ④ 助け合い活動を行う作戦タイムなどの時間を最優先して子どもの意欲の持続を図った。
- ⑤ 動きの確認のために、タブレットを授業に導入することができた。有効活用のためには、ネットワーク等のハード面にも課題がある。

Check：取組の成果

- ① 多くの単元で子どもが意欲的に取り組むことができた。
- ② 運動が苦手な子どもが喜びながら取り組む姿を見ることができた。
- ③ 学級担任が授業内容を専科教員と一緒に考えることで安心して授業に臨むことができた。
- ④ 体育専科教員が前年度の学習内容を知っているため、教育課程を計画的に進めることができた。
- ⑤ 支援を要する子どもへの指導ができることで、子どもの意欲向上につながった。
- ⑥ 訪問校教員の若手教員を中心に、授業力向上に役に立つことができた。

Action：今後の課題

- ① 児童の意欲向上のための支援のあり方
- ② タブレットの有効活用
- ③ 教師の効率的な授業準備のあり方

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

学習過程や教材の工夫をすると、子どもが進んで練習や助け合い活動を行うようになってきた。



(たからはこびおに・1年)



(タブレットで作戦タイム・1年)



(ピンクチーム攻撃・1年)



(ロイロノートで作戦カード・1年)



(とびごごたまごのり・1年)



(とびのり・2年)



(ゲストティーチャー・5年)



(着衣泳・3年)



(側方倒立回転・1年)